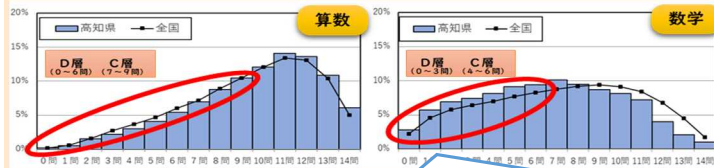


現状・課題 (R4年度)

全国学力・学習状況調査

同一集団から見た正答数分布の状況(H31 小6算数 ⇒ R4 中3数学)



C・D層の割合が、中学校で増加している  
→小学校段階からのつまずきへの手立てが必要

児童生徒質問紙 学校の授業時間以外の1日あたりの勉強時間



平日、休日ともに「全く勉強をしない」と答える児童生徒の割合が増加傾向 → 家庭学習習慣の定着が必要

1人1台タブレット端末の活用状況

授業における活用「ほぼ毎日」と回答した学校の割合  
 R4年4月 (全国平均) R5年4月  
 小学校…37.5% (58.2%) → 79.2%  
 中学校…52.9% (55.5%) → 84.0%  
※全国学力・学習状況調査より 小中学校課調査より

毎日持ち帰り実施と回答した学校の割合  
 R4年4月 (全国平均) R5年1月  
 小学校…2.7% (14.2%) → 7.5%  
 中学校…5.9% (17.0%) → 16.5%  
※全国学力・学習状況調査より 小中学校課調査より

- ▲端末活用率、持ち帰り実施率の伸び悩み
- ・授業と家庭学習をつなぐ効果的な活用に対する教員のイメージ不足・スキル不足
  - ・インターネット環境のない家庭があること、破損時の補償の問題があるため持ち帰り実施に躊躇

今年度の取組

AIを活用した基礎学力の定着

AIデジタルドリルの組織的・効果的な活用により、基礎学力の定着に向けた取組を推進する

- NEW ○デジタルドリル活用実証研究事業
- ・県内6地域17校を指定し、授業や加力学習及び家庭学習における活用を研究
  - ・効果的な活用例を県内に普及
- 指定校の教員より
- ・AIがつまずきを指摘してくれるので、児童のつまずきの把握に役立っている。
  - ・類似問題が自動で提示されるので、習熟に効果的である。

家庭学習習慣の定着

1人1台タブレット端末の持ち帰りを推進し、児童生徒が自ら学ぼうとする家庭学習習慣の定着を図る

- AIデジタルドリルの活用
- ・学習の理解度に応じた学習の実現
- 学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」の活用
- ・児童生徒が自ら学べる学習支援動画や県教育委員会作成のデジタル教材を活用

教員のICT活用指導力向上

小学校教員がICTを活用した授業イメージをつかみ、各学校での効果的な実践の普及を図る

- NEW ○小学校ICTスキルアップ研修会(5・7・10月)
- ・初・中・上級コース(各4回実施)
  - ・情報教育推進リーダー(41名)による実践発表
  - ・デジタル教科書の活用事例の周知
  - ・協働学習支援ツールの演習
- 授業づくり講座
- ・ICTを効果的に活用した授業の公開
- 初級コース参加教員より
- ・こんなに便利なツールがあるのなら、授業で使ってみたい。

児童生徒のICT活用力向上

デジタルツールの利用を通して、児童生徒の情報活用能力の向上を図り、ICTの日常的な活用を促進する

- NEW ○高知家タイピング選手権(第3回…6月、第4回…11月)
- ・タイピングスキルの向上を図る。
- デジタル作品コンクール(10~12月)
- ・動画やプレゼンテーション作品のコンクールを開催することで、表現力や発信力、創造性を育む。

今後の検討事項

★次期教育大綱等の策定に向けて、今年度、さらに取組を強化するために検討を進めるポイント

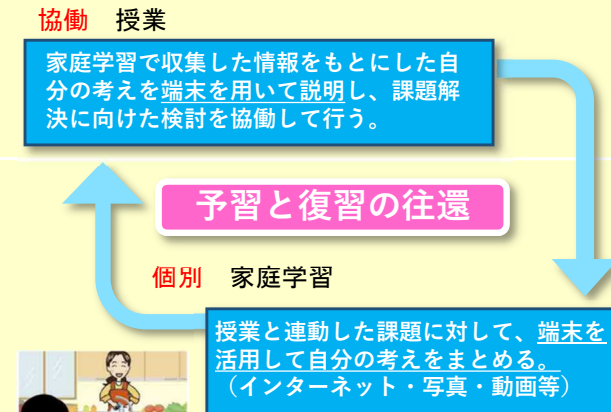
○ICTを活用した協働的な学びの充実

ICTを活用した課題解決型学習の推進

児童生徒が、自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程や振り返りを重視



(例) 授業と家庭学習のシームレス化の推進



- インターネット環境のない家庭への対応
- ・通信費支援について国に働きかけを継続
  - ・放課後学習の施設や公共施設等のWi-Fiの活用を検討(市町村教育委員会へ設置に向けた働きかけ)